

□海外文献紹介□

間歇的成分栄養投与による小児
Crohn 病患者的成長改善

Chronic intermittent elemental diet improves growth failure in children with Crohn's disease: *Belli DC, Seidmen E, Weber AM, et al* (Gastroenterology 94: 603-610, 1988)

報告によれば、15~40%にみられるという小児 Crohn 病の成長異常は主として栄養摂取不足に原因のあることが、アイソトープを用いた代謝的研究の面から確認されている。

今回、著者らは、この考えのもとで成長遅延を示した患者に間歇的に成分栄養を投与して、その効果をコントロールされた prospective な研究で検討した。

成分栄養投与群は 8 人(男 7, 女 1)

で年齢は 9.8 歳~14.2 歳であった。対照群は 4 人で、年齢、身長、体重、CDAI、プレドニン投与量には有意差はなかった。

実験計画は前半 1 年の観察期間には内科治療を行い、後半 1 年の実験期間に、成分栄養群では 4 か月ごとに 1 か月間、年に計 3 か月間にわたって、夜は経管的に、昼は経口的に成分栄養を投与し、他の食事は与えなかった。成分栄養を投与しない期間は対照群と同様にほとんど普通食であった。

この結果、成分栄養群では、成分栄養投与中の平均カロリー摂取量が、投与前、投与後のそれに比べると有意に約 25% 多かった。

身体計測法では、成分栄養群で身長、体重共に、対照群に比して有意

に増加がみられた。しかし、骨年齢は両群で差はみられなかった。成分栄養投与中の Crohn 病活動指数とプレドニン使用量は、実験群の成分栄養非投与時と従来の薬物治療を行った対照群に比べて、有意に減少していた。しかし、第二次性徴の発達は、治療方法には関係なく同じであった。

以上の結果から、著者らは間歇的に成分栄養を投与する方法は小児期の Crohn 病患者にみられる成長遅延の改善のみならず Crohn 病活動指数とプレドニン使用量の減少に役立つと結論している。

(愛知県がんセンター病院消化器内科
松浦 昭 抄)